

第123期 中間報告書

自 2022年4月1日 至 2022年9月30日

富士通株式会社

株主のみなさまへ

株主のみなさまには平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、パーパスを「イノベーションによって社会に信頼をもたらす、世界をより持続可能にしていくこと」と定めております。本パーパスのもと、当中間期は、2021年度に策定した事業ブランド「Fujitsu Uvance」によるお客様や社会への価値創造の提供および自らの変革に注力し、社会と当社グループの持続可能性の向上を図ってまいりました。今後も、パーパスの追求を通じて既存の枠組みを超える新たな挑戦を促し、当社グループにしかできない価値創造を追求してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともご支援賜りたく、何卒お願い申し上げます。



代表取締役社長 崎田 隆仁

決算ハイライト

> 2022年度中間期の連結決算概要 (単位：億円)

	2021年度中間期	2022年度中間期
売上収益	16,630	17,053
営業利益	814	1,009
当期利益	529	719
フリー・キャッシュ・フロー	1,040	472

*本報告書においては、親会社の所有者に帰属する当期利益を「当期利益」として表示しております。

> 2022年度の業績見通し (単位：億円)

	2021年度実績	2022年度予想
売上収益	35,868	37,200
営業利益	2,192	4,000
当期利益	1,826	2,800
フリー・キャッシュ・フロー	1,890	2,800

> 2022年度中間期の業績

当中間期の売上収益は、半導体不足に起因する部材供給遅延による減収影響がありましたが、テクノロジーソリューションの売上伸長に加え、デバイスソリューションの電子部品の売上が好調だったことにより、前年同期から423億円の増収となりました。

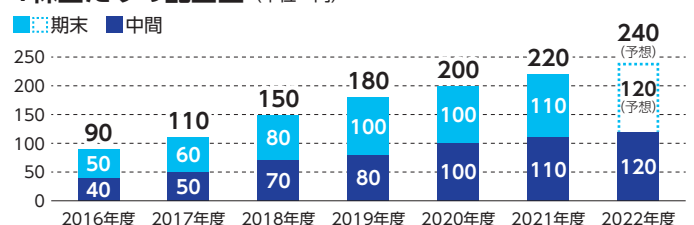
営業利益は、ビジネス成長および自らの変革に向けた投資の積極的な拡大や部材供給遅延による減益影響を受けましたが、テクノロジーソリューションおよびデバイスソリューションの増収による利益の増加、前年に実施したDX人材施策の効果および生産性向上による採算性の改善が計画通り進捗したことに加え、事業の譲渡による一過性の利益を計上したことにより、全体としては前年同期から194億円の増益となりました。当中間期の業績の詳細につきましては、p2「セグメント別の概況」もご参照ください。

株主還元

中間配当につきましては、計画通り前期中間配当から10円増配し、1株当たり120円といたします。

また、今年度は上限1,500億円の自己株式取得を実施する計画です。今後の株主還元につきましても、キャピタルアロケーションポリシーのもと、安定配当に加え、資本効率も意識した自己株式の取得を積極的に行い、総還元額を拡大していきます。

1株当たりの配当金 (単位：円)



*2016年度から2018年度中間期までの配当金は、2018年10月1日に実施した株式併合の基準で換算した金額を記載しております。